

平成28年度

技術士第二次試験・口頭試験再現

試験官A

Q：〇〇さんでよろしいですか。

A：はい。〇〇と申します。よろしくお願いいたします。

・それでは口頭試験を始めます。

Q：まず提出していただいている業務経歴について、3分程度で説明してください。

A：A社：開発構想、B社：行政調査、公共施設設計、C社：担当・主任時代は許認可手続き関係、室長代理・室長時代は開発協議の資料づくり、副部長・部長時代は都市計画協議、全体調整の他、最近はまちづくり勉強会等の講師などもさせていただいております。

Q：業務内容の詳細についても説明してください。

A：説明。

Q：苦勞された点は。

A：物流の方々にとっては、地区計画で歩道状空地などを設定するのは、制限になるだけとの印象が強く、なかなかご理解がいただけませんでした。

そこで、誰しもが理解できる建ぺい率、緑化基準に着目して、それを道路沿道に統一的に確保するのです、という説明をしました。

また、ワークショップや懇談会などを1年以上かけて行い、ご理解をいただきました。

いろいろな開発が混在はしますが、より良い街にしていきたいと思いますとの説明をさせていただきました。

Q：権利者数は。

A：法人で〇〇社でした。

Q：他に印象に残っている業務は。

A：〇〇駅の再開発です。長年動かなかった再開発でしたが、駅前広場の位置を変更し、再開発ビルを駅側に動かすなど、8つの都市計画を同時決定しました。

5年ほどかかり、〇〇市役所の方々、地元の方々も含めて、苦勞しましたので印象に残っています。

Q：それも直近の副部長・部長時代の業務ですか。

A：室長代理・室長、副部長・部長時代にかけての業務になります。

Q：戻りますが、業務経歴書に記載の業務はあなたが主体的な立場で行ったのですか。

A：当初は社長も関わっていましたが、実務的には私が主体的に行なっていました。社長は全体会議などに出席するような形でした。

Q：どのような体制で行ったのですか。

A：社長、私、その下に担当の3名で行いました。

Q：その地区はその後どのような状況になっていますか。

Q：いくつか、マンション開発なども進んでおりますが、まだ過渡期の状態です。ただ、地区計画で約〇〇キロに及ぶ歩道状空地进行を都市計画決定しておりますので、段階的ではありますが、目指すまちの実現は出来るものと考えています。

また、その運用については、地元の方々、〇〇都、〇〇区で構成するまちづくり委員会が組織されており、そこで目指すまちづくりに合っているかは審査する仕組みになっています。こちらの運用細目の作成も支援しました。

#### 試験官B

Q：技術士法には技術士の義務、責務が定めてありますが、そのうち重要だと思うものを3つあげ、さらにその点について日常の業務でどのように意識しているかについて述べてください。

A：まず、信用失墜行為禁止の義務があります。これは、業務を行なっていく中で、やはり皆さんから信頼をいただかなくてはならないという点で、非常に重要だと思います。日常的には、正しい情報をきちんと扱い、関わる人達に説明をするということに気をつけています。

二つ目は秘密保持の義務です。やはり、先ほどもお話ししましたが、関わる方々に信頼されるためにも、皆さんの情報をきちんと扱うということが大事だと考えています。

最後になりましたが、もう一つは、やはり公益確保の責務です。公共の安全、環境の保全を確保することが、科学技術といった分野を担う技術者にとっては、重要だと思います。皆さんにご理解いただく、良いものを作っていくことを心がけています。

Q：いろいろと業務の経験をされていますが、公益の確保という点では、なかなかご理解いただけないことも多くご苦労されているのではないですか。どのように業務にあたっていますか。

A：やはり、都市開発、再開発という業務が多いものですから、高度利用をする場合などは、周辺の方々には日影や風環境といった影響が出ることもあり、ご理解をいただくことが難しいこともあります。

ただ、開発としては、広場を確保したり、歩行者通路を取ったり、地域の方々にとっても良くなる取り組みを行なっている点をご説明しています。また、日影や風などについては法令を順守して、影響がないことを説明してご理解いただくようにしています。

また、開発事業者には、最低限の法令を守るだけでなく、さらに影響を出さないような取り組み、努力をしてもらうように働きかけ、事業者側にとっても地域の方々にとっても良い取り組みとなるよう、業務にあたっています。

Q：受験の動機を聞かせてください。

A：部長職に就いて6年になり、部下も何人か持っていますので、そういった社員の見本、目標になりたいと思っています。

また様々な業務を行う中で、資格を持った技術者として、クライアントや住民方々にも安心をしていただきたい。業務を進めていく上で、中心的な役割を担っていきたいという思いで受験をしました。

・試験官Bが試験官Aを見て、「いいですか。」

・試験官A「はい。」「以上で口頭試験を終わります。お疲れさまでした。」

A：どうもありがとうございました。失礼いたします。